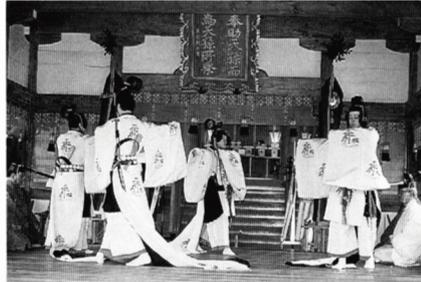




毎月十五日発行 社会 宗像 大像 宗像 電話 0940-62-1311(代) http://www.munakata-taisha.or.jp/ 定価 一年送料共 1000円

春季大祭斎行

桜花の下賑う参拝者



座に着座。宮司一様に始まり雅楽の調べが流れる中、献饌、幣帛進進の後、大田宮司が皇室・国民の平安を祈る祝詞を奏上し、続いて宗像郡市内の氏子代表として、玄海町の岩佐昭正氏

桜花爛漫の四月一日から二日間に亘り宗像大社本殿にて春季大祭が盛大に斎行された。大祭を間近に控えた三月二十九日には、地元総代並びに協力員奉仕により、注連縄、紙垂の新調、幡立て、各所の装飾張り等の大祭準備が行われ、境内の装いもすっかり整った。

三月三十一日、午後五時、総社地主祭、同六時から宵宮祭が夕暮れの中斎行され、大祭が無事斎行されるよう祈念された。

大祭当日の四月一日、正殿に威儀を正した大田宮司以下神職、氏子奉幣使、主基地方風俗、浦安舞奉仕者を始め、地元各界並びに多数の氏子参拝者が齋館前に列立、一鼓と共に同参進、殿舎にて修祓を受け本殿へと進み、拝殿所定の



天候に恵まれ春季大祭一日が斎行され

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

が奉幣詞を奏し、その後神楽が奉納され、先ず保存会による基地方風俗舞が奏された。この神楽は、先の昭和大前即位の際、大嘗祭大嘗会にて奏された舞で、それ以降、特別の思し召しを以て大社に唯一保存・伝承されている貴重な神楽である。次に十二単を身につけた地元女子中学生四名の奉仕により浦安舞が桜花咲き誇る神苑で優雅に舞われた。

続いて宮司が玉串拝礼、氏子会長、鎮国寺住職、神界代表を始め、各界代表者が順次玉串拝礼を行い、祭典は滞りなく終了。

翌日、春麗らかな天候に恵まれ春季大祭一日が斎行され

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

に、御点前を披露し、香ばしい濃祭が神前に捧げられた。かくして春季大祭は、好

神宝館は空調設備の改修工事(本紙一月号既報)を計画通り二ヶ月の工期に終了、国県の担当調査官の施工実況調査も問題なく承認された。

湿度八〇・九〇以上の高温多湿、冬季は温度一五度以下、湿度七〇・八〇以上の低温多湿の状態であった。

今回の空調設備改修は、第一に、収蔵する十三萬点余の神宝を管理に年間を通じて適正な湿度を保持する。第二に、機器の保守管理並びに維持の軽減計る。第三に、拝観者に対する室内換気は、第一にフロングラスに替わる新素材の触媒ガス使用、第二に塩害防止仕様、第三に

各階、各収納ケース毎に設置する温度湿度感知器を、当初徐々に塩害・安寝雑まで直線三キロメートル、排気ガス(真横に奥道)、湿気、装置の腐敗、老朽化が進み、近年では作動不可能な状態となっていた。

このため館内の湿度は、夏季は温度三〇・四〇度、

湿度八〇・九〇以上の高温多湿、冬季は温度一五度以下、湿度七〇・八〇以上の低温多湿の状態であった。

湿度八〇・九〇以上の高温多湿、冬季は温度一五度以下、湿度七〇・八〇以上の低温多湿の状態であった。

神具・装束 株式会社 井筒 福岡店 福岡市博多区東公園二二二(〒812-0045) 電話 福岡(0940)六六一九四五六番 本店 京都市下京区油小路六条入(〒600-8231) 電話 京都(075)331-1341(代) 三三三-1341(一)番 三三三-1341(二)番

木組の家 匠の技 総合建設業 株式会社 弘江組 事務所 811-3406 福岡県宗像市大字福元二〇二五 電話 (0940) 331-1567

自動制御システム、第四に騒音の低音化並びに使用電力の省エネ化など、環境に対する適応と配慮、管理維持の簡素化と節約が図られている。

神宝館では今回の空調工事に併せて、収蔵展示のリニューアル化を行った。開館当初から現在まで二十二年間、「収蔵品を見せる」との方針で収蔵品を陳列したままであったが、これを機会に展示ケース内の模様替を計った。

当館で収蔵する十三萬点余の神宝を出来るだけ出陳して一般の人々に拝観していただき、宗像大社の歴史と昔の人々が御祭神への敬神奉拝の証しとして奉獻され、伝世された神宝への理解と教養を研鑽していただくことを目的として、

一、収蔵品の陳列替を定期的に行う。二、展示品を年代別、系統別に統一する。三、展示品の由緒説明をパネル掲示する。四、関連する国内外の資料を写真、パネルにて説明掲示する。

一、拝観者の目線に合った展示を心がける。二、展示を基に二十二年振りに大幅な展示替えを行い、四月一日に開館しました。

神宝館空調工事了

一階に室外機三台、室内器九台、ケース内四台、二階に室外機三台、室内器七台、ケース内六台、三階に室外機四台、室内器八台、ケース内八台、室内換気は各階毎に換気扇を設置し、館内の湿度を常時一定に保持すると共に空気清浄化をも計っている。

一、展示品を年代別、系統別に統一する。二、展示品の由緒説明をパネル掲示する。三、展示品の由緒説明をパネル掲示する。

一、展示品の由緒説明をパネル掲示する。二、展示品の由緒説明をパネル掲示する。

一、展示品の由緒説明をパネル掲示する。二、展示品の由緒説明をパネル掲示する。

一、展示品の由緒説明をパネル掲示する。二、展示品の由緒説明をパネル掲示する。

一、展示品の由緒説明をパネル掲示する。二、展示品の由緒説明をパネル掲示する。

人事異動(神職)

- 四月一日付で人事異動を左記の通り行いました。 宮司 太田 可愛 社務本局長 権宜 神島 定 文化財管理事務局長(兼) 權宜 石橋 清寿 庶務部長・海洋分局長(兼) 堤 宏 庶務部長 高向 正秀 祭儀部長・電算室長(兼) 渡邊 秀丸 庶務部庶務課長 杉山 安彦 祭儀部儀式課長 宇都宮 勤 文化財管理事務局員(祭儀部付) 伊藤 佳和 庶務部庶務課長 葦津 幹之 庶務部庶務課長 佐々木 大治 海洋分局員(由津宮) 中原 裕生 庶務部庶務課長 御床 直之 庶務部庶務課長 大塚 宗延 庶務部庶務課長 飛来 孝佳 祭儀部庶務課長 長友 貞治 庶務部庶務課長 藤田 俊介 祭儀部儀式課員 実習生 高木 裕之 祭儀部儀式課員

御礼

春季大祭斎行に際しましては、皆様方より心からなる御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。お除をもちまして、祭典も無事厳粛に斎行することができました。ここに紙面をかり、謹んで御礼申し上げますと共に、皆様方の益々の御尊崇を心よりお祈り致します。

宗像大社 社務所

超高度ビル、原子力発電所、空港、自動車工場などはいずれも現代日本の科学技術の粋を集めてつくられたコンクリートで管理される最新鋭、最先端を行く施設である。しかし、これらの施設はすべて私たち日本人が、古代から連綿と受け継いできた日本の神々の加護のもとに建設され、運用されているのである。これらの着工にあたっては必ずと言っていい程、地鎮祭あるいは起工式を行い、完成時には竣工式、又それを開業する際は開業式などで、その地域の神職が出席し、祭場を設け、工事の安全と無事を願う祭典が斎行される。更にこれらの建物ビル、工場の中に神社や神棚を祀っている企業も多数ある。又航空会社や海運会社などでは、旅客機を導入の際にお祓いをして安全を願う。フェリーなどの客船や石油を運ぶタンカーなどは海上安全を祈って神棚が祀られている。

いかに最先端のエレクトロニクスの粋を集めて造られた科学機器や道具であっても、所詮は人間が使用し、運用の心ありかたで、人間の心のありかたで切り離すことはできない。またそこには、人智の及ばない運命が左右するという場合もある。それは論理的であらばあるほど現在の化学で解明し得るこの限界と、予想し難いことが存在するからである。このように予想し得ないことや不思議なことがあるから、我々は神に祈り、願いを請うのである。(S)

王子神社 春季大祭

毎月「神郡宗像・末社めぐり(四面下)」で連載の通り、(西大和朝廷の崇敬をうけた宗像大社を中心、宗像市・郡内には「宗像七十五末社・百八神」という「末社が鎮座している。これらの社はすべて宗像大宮司家が管轄してきましたが、天正年間(戦国時代)豊臣秀吉により社領が没収されると、急速に衰退の一途を辿り、郡内の「末社」の維持運営が困難になる。この結果七十五末社のほとんどが市・郡内各地区の管理となり、産土神(鎮守社)として定着していった。しかし、その中でも重要な社は依然として大宮司家が管理を続けた。その数社の社に「織幡神社」と「王子神社」がある。織幡神社は社格が高く、社殿も立派であり現在も地域の人々に厚く崇敬されている。



王子神社
四月三日、宗像市王丸許柴山山頂に鎮座される王子神社の春祭が斎行された。当社社外外掛社であるこの王子神社は御祭神に大己貴命・素盞鳴命を祀り、かつては宗像五社(宗像大社・織幡神社・孔大寺神社・的原神社・王子神社)に数えられた。現在は石祀が残るのみである。

織幡神社
四月十六日、玄海町鐘崎に鎮座される「織幡神社」の春祭が斎行された。当社より神職が奉幣使として向出した。

同日社は主祭神に武内宿禰(たけのうちのすくね)を祀る「三韓征伐」の功臣であり、この鐘崎で軍旗を織った。



春季大祭奉納剣道大会

早朝、竹刀を打ち合う音が、大社の神苑にこだました。去る三月三十一日、恒例の春季奉納剣道大会が開催され、当日は春らしい暖かな陽気に恵まれ、選手たちの集合時間は八時半であるが、この大会が本殿横の境内で行われる野球場に慣れ、少しくも土の足場には来社し、積古に励み、汗を流し、午前九時の開会式には選手四百名を始め、審判、父兄は、大会々場の本殿横に集合し、試合に先立ち一同は神職より御祝いの受け、玉串拝礼を行った後、日本剣道形居合の演武が披露されると、試合は子供を始め父兄等の喚声に包まれ、約六時間に亘り行われた熱戦も午後三時には無事終了した。試合結果は次の通りです。

個人戦
男子中学生 第三位 自由ヶ丘剣道教室
男子中学生 優勝 山邊俊見自由ヶ丘
優勝 坂田友瑠(神興)
第二位 伊東達彦自由ヶ丘
小学五年生 優勝 西田諭史(河東)
優勝 中島翼(東部)
第三位 林田善人(玄雲館)
小学六年生 優勝 平井大貴(河東)
優勝 坂田竜人(神興)
男子中学生 第三位 平野孝圭(河東)
男子中学生 優勝 西村紘太郎(城山)
優勝 森河原悠(城山)
第三位 古賀謙次(城山)
女子中学生 優勝 阿部裕理恵(玄雲館)
優勝 赤星沙織(城山)
第三位 赤尾奈美(城山)

団体戦
小学一年生 優勝 田澤俊輔(東郷)
優勝 新屋敷勇(河東)
小学二年生 板谷宏星(東郷)
優勝 北本美波(河東)
優勝 中村 皓(津屋崎)
尾島将希(東郷)
小学三年生 優勝 末永龍之介(玄雲館)
江田真子(河東)
立野浩一郎(玄雲館)
小学四年生 優勝 津屋崎町武道会

になり、御祭神が武内宿禰とされた。御祭神・成務・仲哀・応神・仁徳の五天皇に仕え、紀氏・蘇我氏など二十八氏の祖先とされ、二百四十四歳まで生きた、と伝えられる。そのため、織幡神社は延命長寿の御利益が最も有るといわれている。また鐘崎は海女発祥の地と伝えられ、福岡県一の漁獲高を誇る「鐘崎漁港」のある漁師町である。この鐘崎の岬の先の、小さな山の頂に織幡神社は鎮座されている。

旧社格は旧社、「延喜式(宇安時代初期)に記された我国最初の律令集」の中でも宗像大社に次ぐ神社として記載されている由緒ある神社である。

当日は午前十一時より、祭典を開始。大漁旗が潮風にたはめく境内に、水鳥欄宜のテンポのよい太鼓と大鼓の音が響きわたる。その後水鳥欄宜司による祝詞に啓蒙の祈り、給筆・給餅を奉る。皇室の御祭神に奉る「鐘崎地区の氏子の安泰、航海安全を御祈念申し上げた。祭典後は社務所で直会が催され、新鮮な魚に舌鼓をうち、和やかに歓談した。

春の交通安全キャンペーン

今春も四月六日から十五日までの十日間「春の交通安全」が実施され、四月八日(土)午後二時から宗像市三郎丸に於て「春の交通安全」市民運動街頭キャンペーンが行われた。

春と秋の年一回の交通安全全週間に合わせて、宗像警察署・交通安全協会・宗像大社と宗像市・郡内関係諸団体との合同で行われており、当社からも神職と巫女が参加した。

この日は春のうららかな陽気となり、午後三時より約一時間に亘り、通行車両に啓蒙用のチラシ・鉛筆・飲み物・宗像大社交通安全御守、ステッカーなどを手渡し、ドライバー一人一人にシートベルトの着用・安全運転を呼びかけた。

近年、宗像地区でも大規模な交通事故防止・解消に役立つことを祈る。



大社の神宝 ③ “金銅製雛形五弦琴”

現在、琴は一般人の教養、特に女性の教養として広く普及しており、その一方で神社では、神事でも欠かすことのできない重要な楽器となっている。

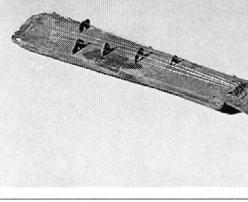
古代において、琴は宴の余興としての役割もあつたが、やはり神事の役割が強く、神聖な楽器として考えられていた。その神聖な楽器「琴」のミニチュアが沖ノ島の古代祭祀遺跡から発見されている。それが金銅製雛形五弦琴である。

一三ヶ所ある祭祀遺跡のうち、この雛形琴が出土したのは五号遺跡である。その遺跡は時代や形態により四段階に区分した沖ノ島の祭祀のうちの第三段階、半岩露露天祭祀「七世紀後半代」の頃の祭場跡に当たる。

雛形琴の全長一七・一センチ。破損している琴尾から琴頭の方へ順番に直線状にすまじょう、一センチ、破損している。集弦部で一旦挿れ、琴頭の端へ向かって、幅は琴頭端(鳥尾端)部分で最も広く、六五センチ。集弦部から琴尾にかけては長さが二七センチで、上板の端を折り曲げ槽の側板として底は裏板ははめ込まれている。よって横断面は「U」形である。上板と裏板は六ヶ所で銹止めしている。集弦部には山形の板を貼り付けて龍骨の小孔があり、これによりこの琴の原形が五弦琴であることが解る。このことを証明するものが、雛形琴と併せて出土した五個の山形の琴柱である。この五個の山形の琴柱は、その五個の山形に、この五個の山形の琴柱を、頂部にある小孔に弦を通して弦を張り原形となるのである。

「延喜式」の伊勢神宮御神宝の中に、頭部が鶏の尾の形状をした、その名も「鶏尾琴」(びりのをのこ)というものがあつた。当社五弦琴はその琴と形状が類似していることから、鶏尾琴の前身とも考えられる。

現在、我々が普段目にしている五弦琴は「箏(そう)」と呼ばれ、飛鳥時代から奈良時代にかけての大陸から輸入されたものである。十雛形琴は古墳時代の和琴形式から奈良時代の和琴形式の中間形態であることが明確になっている。形状に注目すると五弦琴は、形を呈し古墳時代に遺留琴の伝統を受け継いでおり、また槽の構造は奈良時代の和琴に近く、「隋書(倭国伝)に「五弦の琴、箏有り」とある。これは隋代の我国に五弦琴が存在していたことを示している。従って、沖ノ島出土の雛形五弦琴は飛鳥時代を前後する頃に成立したと考えられる。また古墳時代の和琴から奈良時代の和琴への過渡的な様相が強いことが認められるのである。(写真は金銅製雛形五弦琴・弦は復元)



山田幸雄(禰宜)退任
当社山田幸雄(禰宜)が平成十四年三月三十一日付を以て退職致しました。
山田(禰宜)は、昭和十七年大宮宗像小社院生まれ。昭和学院大学神道学修業卒業、同四十年十一月奉職。昭和四十四年三月権禰宜拝命、同五十年一月、主任禰宜、用度課長、事務課長、平成二年八月一日禰宜拝命、三十六年の水きに亘り、当社神の御祭儀奉養に多大な功績を残しました。
又、氏子会幹事長として、氏子の方々とも非常に親しく接し、当社と地元とのパイプ役として大いに貢献しました。退任後は神宝館の非常勤嘱託として、文化財管理に努めます。

禰宜 高向正秀
昭和五十二年四月
伊勢神宮より奉職、権禰宜を拝命。昭和六十二年八月、事務課長、平成十二年、主任禰宜、用度課長、事務課長、平成二年八月一日禰宜拝命、三十六年の水きに亘り、当社神の御祭儀奉養に多大な功績を残しました。

宗像大神を奉斎 護衛艦「あけぼの」竣工

石川島播磨重工業・東京工場で引き渡し式



むように紅白のまん丸が張られ、艦前に艦長以下乗組員が整列、防衛庁、石川島播磨重工業関係者、当社太田宮司他招待者ら四百名が所定の位置に着き、防衛庁事務官木村太郎氏が政府を代表して栄誉賞を受け、午前十二時開式。

石川島播磨重工業伊藤社長と防衛庁木村事務官が相対し、引渡書と受領書の授受が行われ、海上自衛隊音楽隊の演奏で同重工業の社旗が降された。続いて木村事務官から「あけぼの」の艦旗を自衛艦隊に授けられた。艦旗を高く掲げて艦長が自艦を高く揚げて艦長が自艦に着くと、重艦マーチが演奏され、百六十名の乗員が行進して乗艦、続いて防衛庁関係者が同乗して、国歌の演奏に合わせて艦旗が掲げられた。

防衛庁を代表して、木村事務官が訓示を述べ、艦内視察を行い、式を終った。この間、招待者には、護衛艦の概要について説明があり、音楽隊の演奏があった。

式典終了後、同社豊洲総合事務所四階ホールで祝宴の後、午後一時過ぎ大勢の関係者に見送られて、同艦は就役・出航した。

「あけぼの」の艦名は戦前から教えて四隻目、石川島では二隻目、新造艦は石川島播磨重工業と住友重工業の艦艇造船部門が統合した「株」マリオン・ユナイテッドが建造に当たった。

平成十一年起工、同十二年九月進水、これに合わせ当社宗像大神が艦内に奉斎された。

最新鋭艦「あけぼの」は四千四百トン、ガスタービン四基、六万馬力、速力三十ノット、六十口径速射砲、高性能機関砲、艦対艦ミサイル、水上発射管等を装備し、後部甲板には対潜ヘリコプターを搭載。最新の電子装置とレーダーに探知されにくいステルス性を備えた準イージス艦で、呉市を母港とする第四護衛艦隊に配備される。今年には、自衛隊発足五十年、「あけぼの」が発注されるようお祈り申し上げる次第である。

なお石川島播磨重工業東京第一工場が三月末で閉鎖されるため、「あけぼの」は同工場操業以来艦艇、客船、貨物船等六百九十二隻の最後の建造艦となった。

去る三月十九日、海上自衛隊護衛艦「あけぼの」の引き渡し式・自衛艦旗授け式が、石川島播磨重工業株、東京第一工場E岸壁で、関係多数出席のもとに厳粛盛大に執り行われた。快晴の東京湾に面する同工場E岸壁には機装を了えた全長百五十M・最大幅十七・四Mの「あけぼの」が接岸し、埠頭には同艦を囲



力速力三十ノット、六十口径速射砲、高性能機関砲、艦対艦ミサイル、水上発射管等を装備し、後部甲板には対潜ヘリコプターを搭載。最新の電子装置とレーダーに探知されにくいステルス性を備えた準イージス艦で、呉市を母港とする第四護衛艦隊に配備される。今年には、自衛隊発足五十年、「あけぼの」が発注されるようお祈り申し上げる次第である。

なお石川島播磨重工業東京第一工場が三月末で閉鎖されるため、「あけぼの」は同工場操業以来艦艇、客船、貨物船等六百九十二隻の最後の建造艦となった。

決断力 その時昭和の経営者たちは

出光興産株式会社 出光佐三店主

「理念の確立まで」② 瀧口凡夫著

「退却は無用、主義を貫け」

独立は決意したものの、佐三に資金の当てはなかった。倒産した生家頼れるはずはない。思い悩む日々が続いて年が明けた。

一九二一年(明治四十四年、弥生(陰暦三月)のころ、という。学生時代から親交があった日田重太郎に誘われて、佐三は六甲山麓のハイキングコースをたどっていた。眼下には西宮から神戸の街並海が広がっていた。

先を歩いていた日田が突然、足を止め「出光君」と話かけた。「京都の別荘が八千円で売れた。二千元は私が入用なんだが、残り六千円は君にあげる。使ってくれたまえ」

佐三は驚いた。一瞬、声も出なかった。冗談ではないか、と思った。

日田は続けた、「君が独立して事業を始めた、と願っているのはわかっている。この金は貸すのではない。差しあげるのだ。返す必要はない。もちろん借入証書も利子もいらぬ」

「ただし条件がある。君の主義を貫き、家族仲よく暮らせ、そして、このことを絶

対に他言してはならぬ」

日田重太郎は、淡路島の旧家の出なのだが、感ずる家業がなくて神戸に住み質素で風雅な暮らしをしていた。佐三は学生時代に子弟の中学受験を手伝ったり、友人たちと日田を囲んで議論したりしていた。

日田は、高商を出ながら個人商店に丁稚奉公したり、日露戦争後の好景気が生んだ金権万能の世相に反発する佐三の生き方、考え方に興味をもち、ひそかに共感を寄せていたのである。

「君の主義を連せ」と言ったのはそのためだ。京都の別荘を売ったのも佐三に資金を提供するためだったのかもしれない。

六千円といえは大金である。物の値打ち、金の物打ちがあったら、金儲けの道に現在の数字より、はるかに重みがあった。

佐三は好意を受けるべきかどうか迷った。迷ったが、結局は友人のすすめもあり、

第二回福岡・玄海 合同油彩画作品展

春季神賑行事として、四月一日から十五日まで福岡・玄海町の第二回油彩画合同作品展が、昨春秋に続いて当大社折願殿(階ロビー)に於いて開催された。

福岡町の絵画教室は二十一年程前の老人会主催で、参加者の増加に伴い、現在は日本画・水墨画・洋画の各ジャンルに分かれていて、洋画は、当大社前子会々長であった倉元清彦画伯が講師に、ボランティアで油絵の基礎から、上級者向けとしての指導も受けている。一方、玄海町では平成元

年から生涯教育の一環として絵画教室を開いてきた。現在は名称を「玄代」とし、同町文化協会の一部として鎌田正美画伯を講師に活動も続けている。

今回も無料開放された作品展には、一、二日は春季大祭の参列者、その後は週末を中心に交通安全祈願を待つ参拝者等多くの人々が鑑賞力を前に当番の会員の説明を興味深く聞き入っていた。十五日間に亘って開催された絵画展は大好

評の内に幕を下ろした。次回には秋に開催予定だが、今後は春と秋の年一回を恒例にしていく予定である。

お知らせ

福岡町絵画教室 (会員数十八名)

玄海絵画教室「玄代」 (会員数十三名)

毎週木曜日 午後七時三十分~同九時三十分

場所 アクシス玄海フレイルーム 新春にアクシス玄海にて作品展等

第四十回 宗像大社歌会詠草

大野 展男 選

毎月 25 日、月切

大島 越智 治子 夕映に空のあかるむひとと 武丸 中村さつき きたきし綿入り雛様飾り つつ嫁の出産の無事を祈る

日里 松石 知子 春風に煽られとびしビニール 光陽台 香月 照子 花びらの一人の部屋で想い出す桜吹雪の校舎への道

日里 松石 弘次 若者の交わす巧みな手話見 福岡市 松崎ウメ子 初春を迎え友より電話あり 犀草をさし声のなめら

光岡 河村 久光 今日もまた幼稚園児らたむろして遊びの天才の声をたて 城南ヶ丘 中間日出子 風に乗る足音感じたか そとと芽を出すたいつり草

朝野 藤井 浩子 麻雀部屋建増しなして来客 越前沖海鳴り高し

名古屋 小田 留子 越前沖海鳴り高し

名古屋 小田 喜一 越前沖海鳴り高し

名古屋 小田 喜一 越前沖海鳴り高し

鐘崎 安永 久子 越前沖海鳴り高し

池田 小田 イセ 越前沖海鳴り高し

田野 森 つるの 越前沖海鳴り高し

吉留 高山 信子 越前沖海鳴り高し

福岡 中村 勇 越前沖海鳴り高し

日里 佐藤 純一 越前沖海鳴り高し

津屋崎 宗像 温子 越前沖海鳴り高し

神湊 中山 千鶴 越前沖海鳴り高し

初日の出境内いちめん石畳 越前沖海鳴り高し

かじかみし手に杖も持てず 越前沖海鳴り高し

※詠草の文字はくすきず、楷書で万筆筆本、ルペンではつきり書いて下さい。

